

2023（令和5）年度 相模女子大学・相模女子大学短期大学部 発想賞

本学はスローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」を掲げ、「見つける力」としての発想力育成に取り組んでいます。この賞は、卒業研究・卒業制作等の学業の成果においてすぐれた「発想」をした学生を表彰するものです。（各研究科・各学科からの推薦文を原文のまま掲載しております。）

相模女子大学発想賞

清水 陽平（社会起業研究科）

管理栄養士による在宅訪問栄養食事指導サービスの地域展開

病院内管理栄養士による高齢者への在宅訪問栄養食事指導サービスの普及促進に関する事業計画である。介護者や各医療機職種等を対象とした緻密な調査を踏まえて、医師や看護師への当該サービスの広報活動、医師の負担軽減を考慮した指示書の様式変更、ケアマネジャーを軸とした依頼ルートの構築、病院内経理システムでの課金業務設計などについて、具体的に計画した。今後は多地域での展開も計画しており、大きなソーシャルインパクトが期待される。

常盤 唯（日本語日本文学科）

翻訳絵本に表現された文化の違い

本論文は、日本語による絵本を原作とする「翻訳絵本」の絵の部分に着目し、そこに表現されている原作との文化の違いについて考察したものである。本論文は「テキストには表れない、言葉にする必要のない部分にこそ、その国や地域に根付いている文化がより鮮明に表れるのではないか」という筆者の発想に基づいており、また、絵を出発点として、言語、文化といった幅広い視点を持っている。この点において「自ら課題を見出し、それに対する自分なりの考察や取り組みがしっかりとなされており、発想賞にふさわしく、推薦する。

伊佐 風椰（英語文化コミュニケーション学科）

スケートボード界の進化：日本のコーチング体制の現状と課題

スケートボード競技において16年の経験と日本代表選手としての実績を持ち、卒業論文ではスケートボードの歴史、他競技・他国比較の調査を通じて、日本を強豪国に成長させるコーチングスタイルを提案した。国際的な経験から得た洞察を基に、技術的な側面だけでなく、心理状況が及ぼす競技への影響に焦点を当てたスタイルを目指している。将来のスケートボード界に新しい展望をもたらす可能性のある発想に期待を寄せて推薦する。

柴田 優（子ども教育学科）

倉橋惣三の保育思想を幼児保育・学童保育で実践する

日本のフレーベルと呼ばれた児童心理学者 倉橋惣三は、大正時代から昭和時代にかけて日本の幼児教育の基盤を作った。柴田氏は、倉橋の主要な著作を精読した上で、相模原市の地域における幼児保育・学童保育に臨む。保育現場での観察と実践を通じて、倉橋の思想がいかに現代の保育に活かされるかを探究した。柴田氏の保育実践における瑞々しい発想と倉橋の自由な保育

思想が細やかに響き合う、卓越した実践研究である。

喜 すなお (メディア情報学科)

AIを用いた性格検査に対する実験的検証

この研究では、近年注目されているChatGPTを活用し、ユーザーの個々のニーズに応じたカスタマイズサービスの有効性を検討している。具体的には性格検査 (16personalities) を活用し、パーソナライズされたAI (ChatGPT-4) が人間のメンタルケアや自己理解にどのように影響するかを明らかにするための実験を行った。ChatGPTの幅広い分野での応用の可能性を示した研究として高く評価できることから推薦する。

鍋島 はな (生活デザイン学科)

ことのわ (卒業制作)

鍋島はなさんは、大学生活の4年間を通して、あらゆるデザイン領域で類まれなる才能を發揮し、優秀な成績を収めたことにより全教員一致でこの発想賞に推薦された。卒業制作の作品は方言と標準語が対になった神経衰弱型のカードゲームである。対になったカードを合わせると1枚の絵柄になることから、絵合わせという遊びを通して方言とその意味を学ぶ。幼少の頃、引っ越しが多く転校を繰り返した自身の経験から、作品には「引っ越しに不安を持つ子どもにとって、新たな土地で新しい友達と仲良くなるきっかけ作りの場になれば」という思いが込められている。一年を通してリサーチ、試作を繰り返したことでユニークな発想はより説得力のある作品となり高い評価を得た。

長澤 ひな (社会マネジメント学科)

最近の日本におけるヒット曲の傾向と特徴

本卒業研究は、最近の日本のヒット曲の傾向と特徴を分析したものである。具体的には、「ヒット曲に占めるTikTokのバズり曲や、ジャンプアニメ主題歌の割合が大きくなっていること」、「TikTokのバズり曲のイントロは平均約10秒と短く、ヒット曲全体でも極端に長いイントロの曲は減ってきていること」などを明らかにしている。具体的なデータ分析に基づいて、ヒット曲の変化を可視化しており、社会的意義の大きい優れた研究である。

高橋 芽衣 (人間心理学科)

グループワーク実践を通じた発達障害者の過剰適応の解消方法の検討

本学生は、卒業研究の一環として、知的・発達障害の青年と学生による自主サークル「さがっば当事者研究会」を立ち上げ、差別解消に向けた社会のあり方についてグループワークでの議論を重ね、そこで得られた実践的な知見を論文にまとめた。また、得られた知見を文部科学省主催「大学生発！みんなのマナビ、わたしのマナビ」(2023年10月)や神奈川県主催「共生社会実践セミナー」(2023年12月)にて発表し、関係者から高く評価された。

池谷 華琳 (健康栄養学科)

キクイモを利用したフィナンシェの血糖上昇抑制効果

当該学生は卒業研究として血糖値の上昇を抑えた菓子類の開発に取り組み、キクイモ粉を利

用したフィナンシェの開発に成功した。さらにフィナンシェを摂取した被験者の血糖値解析および官能評価を通じて、白キクイモ粉を用いることで血糖上昇抑制効果に優れ、美味しさも維持したフィナンシェの製造が可能であることを明らかにした。本研究成果は栄養学研究の進展に大きく貢献するものであり、発想賞にふさわしいと考えられる。

加藤 優衣 (管理栄養学科)

宗教上の食事のタブーに関する認識・理解度についての研究

グローバル化が進む日本では、病院での食の提供にも文化や宗教に考慮した対応が必要である。宗教上の食事のタブーに関する認識・理解度について、神奈川県内の病院での対応の現状と管理栄養学科の学生の認知度、管理栄養士養成過程における位置づけなどについて研究を行い、問題点を明らかにし、対策を示した。今後の学生教育にも影響を与える優れた研究であり、発想賞に推薦する。

相模女子大学短期大学部発想賞

坂野 歩美, 藤崎 愛弓, 星 美月 (食物栄養学科)

食品ロス削減につながるヘルシーレシピ開発とレシピコンテスト「会場賞」受賞

2023年度の「栄養情報処理実習」では、学習成果物を(株)電通「ノーペコ ラボ」が主催したレシピコンテスト「冷蔵庫の闇に光を当てろ! 極上のウマイごはんフェス2023」に応募した。3名がチームで開発したレシピ「罪悪感ZEROパンブディング」は、決勝イベントで試食した高校生の票を最も集め、「会場賞」を受賞した。野菜や豆腐を使用して脂質を抑え、見た目にボリューム感を出し、「肥満者でも罪悪感なく、美味しく健康的に食べられる工夫をした」と3名はプレゼンテーションした。この素晴らしい成果は、電通のホームページや雑誌に紹介された。

※補足

このコンテストは、冷蔵庫に残りがちランキング10位までの食材を使った料理レシピを開発し、食品ロス削減の啓発と飢餓・貧困撲滅を目指したものである。

以上